

2006 年度

科目名 生理解剖学A	対象学科・学年 人間入社1回生	担当者 鍋谷 登
授業テーマ 人の身体の構造と機能について理解を深める。		
授業の概要と目標 身体の機能を知るためには、構造の理解が必要であり、その相互の関係について講義する。 生理解剖学 A と B とで一連の系統講義を行う。知識の整理と疑問から学習への意欲を高めるために、講義の最初にビデオを用い、また、テキストを講義前後に熟読されたい。そして、その都度、知識を確実なものとしていく。このような身体の構造と機能を知ること、保健領域で学ぶこと、あるいは、保健分野の専門家になるための基礎となるので、留意されたい。		
評価方法 中間または学期末の定期試験 出席及びビデオレポート		
テキスト イラスト図解 人体のしくみ	著者 坂井建雄	出版社 日本実業出版社
参考書	著者	出版社
授業スケジュール・内容 生理解剖学AとBとは一連の講義内容となる。講義では、動機付けにNHKで放映された「人体」を教材に用いる。テキストの予習とあわせて、簡単なレポートを作成後、関連した内容の講義を行う。その際に、追加の資料を用いて講義する。 Aでは、おもに、ヒトが生きるための基本となる「エネルギー」代謝を主眼において、エネルギーや酸素を取り込む臓器とそのメカニズム、そして、そのエネルギーを身体の隅々まで運搬する臓器とメカニズム、さらに、ヒトが個体として、いかにエネルギー獲得などを目的とした運動を行うか、そのメカニズムについて理解を深める。 順番に暗記していくといった通常の知識習得でなく、どうなっているのだろうか？という疑問を解決していくような内容であるので、細かい知識を記憶するだけでなく、全体中での位置づけを知るように学習されたい。また、随時、知識を確かな物とするために、実際の臨床現場（医療）の経験をふまえて、疾病に関する内容にもふれていく。 各領域1～6は、一つで2コマ分の講義内容を予定している。 1 および2. からだにエネルギーを取り込む 消化器系（消化管）の構造と機能 肝臓・胆嚢系の構造と機能 消化吸収のメカニズムと栄養の関係など 3. からだに酸素を取り込む 呼吸器系（気道、肺など）の構造と機能 酸素を取り込むメカニズムなど 4. からだにエネルギーと酸素を運ぶ 心血管系の構造と機能 大循環と肺循環、局所循環のエネルギーや酸素の受け渡しメカニズムなど 5および6. からだを動かすメカニズム 骨格系の構造と機能 筋肉系の構造と機能 筋の収縮のメカニズムなど		